

## 令和7年度全国学力・学習状況調査結果(中学校)

令和7年4月17日に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果から、稲美町中学校3年生(254名)の「学習成果と課題」「学校・家庭でのようす」「生活と学力の関係」の3項目について分析しました。公表されている全国及び兵庫県の結果と比較して、稲美町中学校3年生の現状は、国語については全国平均とほぼ同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する知識及び技能と「書くこと」において、やや低さが見られました。数学については、全国平均とほぼ同程度でしたが、「数と式」の領域において、課題が見られました。理科については、今年度調査から、CBT(Computer Based Testing)によるIRT\*が実施され、IRTスコアによる学力分析が行われる中、全国平均と同程度でしたが、「粒子」の領域においてやや低さが見られました。教科毎の課題領域に対し、知識・技能の定着と活用を図る取組を学習の過程に組み込み、継続的に実施していく必要があります。

※文部科学省の方針により、学校の序列化や過度な競争につながるような数値は使っていません。

稲美町教育委員会

※IRT(Item Response Theory：項目反応理論)

生徒の正答・誤答が問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論。この理論を用いると異なる問題から構成される試験・調査の結果を同一の尺度で比較できる。 【文部科学省解説ページ】 [https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt\\_chousa02-000043584.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt_chousa02-000043584.pdf)

### 1 稲美町中学校3年生《学習成果と課題》

教科(国語・数学・理科)に関する55問の調査問題の結果から、稲美町中学校3年生の学習成果と課題についてまとめました。全国・兵庫県の中学生と比較して、数値が高いものや、やや低いものを抽出しています。

#### [国語]

＜調査問題の趣旨・内容＞

(例 ・スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。

＜話すこと・聞くこと＞

- ・ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く。 <書くこと>
- ・「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く。

＜読むこと＞

- ・変換した漢字として適切なものを選択する。 <言葉の特徴や使い方に関する事項>

＜成果と課題＞

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

[ ]内は、評価の観点[知・技：知識・技能 思・判・表：思考・判断・表現]

#### ① 話すこと・聞くこと

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 [思・判・表]

② 書くこと

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

[思・判・表]

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。

[思・判・表]

- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。

[思・判・表]

- ・ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる。 [思・判・表] ▲

③ 読むこと

- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。 [思・判・表] ▲

④ 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 事象や行為を表す語彙について理解している。

[知・技]

- 文脈に即して漢字を正しく使うことができる。

[知・技]

[数学]

<調査問題の趣旨・内容>

(例) ・ 果汁40%の飲み物  $a$  mLに含まれる果汁の量を、 $a$  を用いた式で表す。

<数と式>

- ・ 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。

<数と式>

- ・ 四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ。

<図形>

- ・ A駅から60 km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。

<関数>

- ・ Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由について確率を用いて説明する。

<データの活用>

<成果と課題>

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

[ ] 内は、評価の観点 [知・技：知識・技能 思・判・表：思考・判断・表現]

① 数と式

- 素数の意味を理解している。

[知・技]

- 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる。

[知・技]

- 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。

[思・判・表] ▲

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

[思・判・表] ▲

② 図形

- 証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見

い出すことができる。 [知・技]

- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる。 [思・判・表]

③ 関数

○一次関数  $y = ax + b$  について、変化の割合を基に、 $x$  の増加量に対する  $y$  の増加量を求めることができる。 [知・技]

④ データの活用

○相対度数の意味を理解している。 [知・技]

## [理科]

<調査問題の趣旨・内容>

(例) ・考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。

<エネルギー>

・塩素の元素記号を記述する。

<粒子>

・「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する。 <生命>

・地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する。

<地球>

<成果と課題>

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

[ ] 内は、評価の観点 [知・技：知識・技能 思・判・表：思考・判断・表現]

① エネルギー

○電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び能が身に付いている。 [知・技]

○考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる。 [知・技]

② 粒子

○塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている。 [知・技]

○加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。 [知・技]

●身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる。 [思・判・表] ▲

●科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる。 [思・判・表] ▲

③ 地球

●地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる。

[思・判・表]